

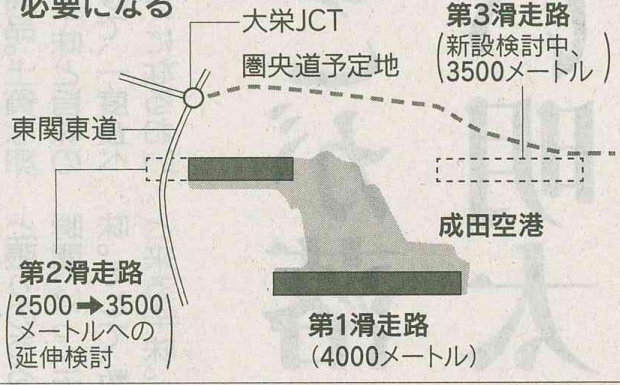
成田空港の機能強化を巡る動きが新たな局面を迎えた。9月27日に国土交通省や千葉県、空港周辺9市町などが開催した「4者協議会」で、これまでの第3滑走路建設案や第2滑走路延伸に加え、新たに夜間の飛行制限時間短縮についても検討すること合意した。10月3日から開催する住民説明会で理解を求めていく。羽田空港の国際線増便で成田の競争力低下が叫ばれるなか、地域と空港の共生のあり方が改めて問われている。

同協議会では、成田国際空港会社（NAA）の

成田の機能強化 新局面

夜間飛行制限短縮を検討

滑走路延伸・新設に伴い空港敷地の拡大も必要になる



競争力低下を懸念

調査結果をもとに、成田の配置案に基づく具体的な機能強化に向けた提案な場所の選定②滑走路建設が示された。①昨年11月設に伴い必要になる空港に示した第3滑走路新敷地の拡大(約1000

設、第2滑走路延伸部分 珍) ③現在原則午後11時

午前6時までとする夜間調整を急いでいる。NAAの夏目誠社長は9月29日の会見で「空港の50万回に達した場合の騒音予測区域——の4点か、希望としてはなるべく早く(滑走路の延伸・新設や夜間飛行制限緩和を)実現したい。だが地域に与える影響も大きく、理解を得られるように最大限の努力を尽くす」と述べた。

10月3日からは、成田市など対象市町への住民説明会が始まる。NAAは機能強化に伴う環境対策や地域共生策に多古町や横芝光町なども提案。周辺地域への交付金拡充や、防音工事への説明会も3回分の日程を調整中だ。その他の係自治体と協議を進める方針だ。